



地面にセンサーを近付け、漏水状況を音で聞き分ける技術を学ぶ



水圧が高すぎる場所には圧力を調整する装置を設置。水道庁職員も現場の作業に携わる

09年から始まったフェーズ2では、すでに敷設されている配水網で漏水が起こる原因を究明し、無取水の発生への予防対策に力を入れた。その一つが水圧の調整。ヨルダンは高低差が激しく、標高が低い

9年からの始まったフェーズ2では、すでに敷設されている配水網で漏水が起こる原因を究明し、無取水の発生への予防対策に力を入れた。その一つが水圧の調整。ヨルダンは高低差が激しく、標高が低い

「プロジェクトを通して、人が育ってくれたことが一番の成果。共に働いた水道庁の職員が中心となり、無取水対策を進めています」と横田さん。住民たちに効率的に水を配れるよう、ヨルダンの人々が動き出している。

また、配水管の敷設工事が適切に行われていない上、水圧に合った仕様の配管が使われていない。「想定より強い水圧で水が管を無理やり通っていくわけですから、負荷が大きくなり、管と管の継ぎ目が破損し漏水につながってしまう」と横田さんは話す。

そこでパイロットプロジェクトを通して、適正な水圧にするための配水網の計画づくりや水圧を抑える減圧弁などによる水圧調整を指導した。また、水道庁内のトレーニングセンターでは、各家庭に接続する給水管の施工業者を対象にした研修を行い、そのライセンスを持つ業者だけが工事を受注できる制度も立ち上げた。このような取り組みを通じて、無取水率の減少に向けた体制が徐々に整いつつある。



啓発活動の一環として、パンフレットや蛇口に付けると水量を抑えることができる節水器などを住民に配布



学校でも節水の大切さを教える授業を導入。無取水についても教科書で紹介されている

09年から始まったフェーズ2では、すでに敷設されている配水網で漏水が起こる原因を究明し、無取水の発生への予防対策に力を入れた。その一つが水圧の調整。ヨルダンは高低差が激しく、標高が低い

9年からの始まったフェーズ2では、すでに敷設されている配水網で漏水が起こる原因を究明し、無取水の発生への予防対策に力を入れた。その一つが水圧の調整。ヨルダンは高低差が激しく、標高が低い

「プロジェクトを通して、人が育ってくれたことが一番の成果。共に働いた水道庁の職員が中心となり、無取水対策を進めています」と横田さん。住民たちに効率的に水を配れるよう、ヨルダンの人々が動き出している。

また、配水管の敷設工事が適切に行われていない上、水圧に合った仕様の配管が使われていない。「想定より強い水圧で水が管を無理やり通っていくわけですから、負荷が大きくなり、管と管の継ぎ目が破損し漏水につながってしまう」と横田さんは話す。

そこでパイロットプロジェクトを通して、適正な水圧にするための配水網の計画づくりや水圧を抑える減圧弁などによる水圧調整を指導した。また、水道庁内のトレーニングセンターでは、各家庭に接続する給水管の施工業者を対象にした研修を行い、そのライセンスを持つ業者だけが工事を受注できる制度も立ち上げた。このような取り組みを通じて、無取水率の減少に向けた体制が徐々に整いつつある。

## ヨルダン from JORDAN

# 水を効率よく人々のもとへ

浄水場から送られる水のうち、漏水・盗水などにより料金を徴収できない水が、無取水。この無取水率が約45%にも上るヨルダンで、JICAは水を効率的に届けるための支援を行っている。



配水管が地上に敷設されている場所では、車などの振動の影響で継ぎ目がゆるんで水が漏れてしまうこともある



各地域に水を送る配水管に、水道庁の技術者が流量計を設置

